

芥川高校 サッカー部

韓国遠征 H26.7.29～8.2

○ この夏、大阪府立学校単独チームでは、初となる海外遠征を実施しました。

芥川高校サッカー部がめざす「全国大会出場」を果たすためには、強豪私立高校との差を少しでも縮め、高いモチベーションを保ちつつ、サッカーの技術・能力の両面で飛躍的に向上することが不可欠であり、海外遠征が最も有効な方法であると考えました。フィジカルの面でもメンタルの面でも非常にタフな韓国の高校生と対戦する経験は、これまでの国内遠征では得られなかった成果をあらわし、参加選手のみならず、チームとしても大きな成長が期待できると考えています。またサッカーを通じた韓国の高校生との交流や異文化体験が人間としての成長に寄与することを期待します。

遠征テーマ

守備：ボールへの予測された速いプレス・2nd選手の狙い
攻撃：能動的かつ積極的な要求と動き出し・裏への狙い

7/30(水) vs 天安第一高校

Aチーム ○1-0 ショートパスを繋ぎポジションするチームであったが、終始プレッシャーに勝りゲームを支配する。カウンターで2本シュートまで行かれるも、シュート数は芥川が12本。裏を狙うテーマの意識もありGKとの1対1を7回作るも得点力不足が目立った。

Bチーム △4-4 お互い中盤でのプレスが弱く、打ち合いの結果になった。シュート数こそ15本に対し相手チーム8本と勝るが点の取られ方（ボールホルダーに対しての1stDFが遅れ、簡単に前を向かれドリブルからシュートを打たれるなど）が課題となった。



vs 高陽高校 Aチーム ○2-1

このチームもショートパス主体だがカウンターが速いチームであった。今回も芥川のプレスが勝り、終始ゲームを支配するが得点に至らない。前半シュート数7-2だがそのカウンター1本でいかれ、0-1で前半を折り返す。裏をとるテーマだったが、引く相手に裏のスペースはなくバイタルエリアの攻略を伝え後半スタート。

バイタルエリア付近からのミドルシュートとセットプレーで2点を返し、逆転勝利した。

Bチーム ●1-5 プレスが共にかからない展開は前ゲームと同じだったが、攻撃時にイージーなコントロールミスやパスミスからボールを失う芥川に対して、両ウイングが快速の相手チームはサイドの裏をシンプルに使ったり、ステーションからワンツーで裏をとる。サイドをスピードで制圧され、カバーを作っても数的不利から崩され、内容・結果共に惨敗を喫した。

7/31(木) vs ヤンチョンFC

Aチーム ●0-2 前日とはうってかわり、前線からのハイプレス、ロングボール多用の一般的に韓国をイメージするチームであった。体も大きくフィジカルが強かったのでセカンドボールをほぼ拾われ、



ボールを奪っても相手のプレスに焦ってしまい狙いのない逃げのパスばかりをしてしまいゲームを作れない。徐々にプレスに慣れてはきたが、前半10分での2失点を返すことはできなかった。ハイプレスに焦ってしまうメンタリティーの弱さを痛感したゲームであった。

Bチーム △3-3 A戦とは変わりプレスをかけてこなくなり、中盤で優位を保つも不必要なパスミスからゲームのイニシアチブを握れない。結局、共にゲームを落ち着かせることができず、シュート数も16-12と打ち合いになったゲームであった。

vs 光文高校 Aチーム △1-1 細かくショートパスを繋いできたが、今回も芥川の中盤でのプレッシャーが勝りゲームを支配する。しかし決定力の課題がすぐには改善されずGKとの1対1を何度も外し、1得点で前半を終える。後半に入ると、暑さと疲労からボールホルダーへのよせが遅くなり、カウンターのロングパスから簡単に失点し同点をされる。後半にも前半と変わらない運動量やたくましさをも身につけ、もっと戦えるようにならないと感じた。

Bチーム △4-4 今回の遠征のテーマを確認し試合に入る。しかしAと同様に疲労感を感じる内容で運動量をあげることができず、打ち合いの形でゲームが流れていく。結果、両チームで8点と得点こそ入っているが、その分守備に課題が残るゲームであった。

8/1(金) vs 陵谷高校 Aチーム ○3-2

遠征最後となる試合は前半いいペースで試合を握り2-0で折り返す。しかし前日と同様後半ペースダウンしてしまい、ゲームを支配され2失点するも相手の隙をつく攻撃から1得点あげ、辛勝となった。

Bチーム △1-1 Bチームはやはり組織だった守備がかからず、お互いの攻撃を受けあう形となるゲームになった。結局、最終ゲームも勝ち切れず遠征で1勝もできずに終えてしまった。

ソウル市内観光

午後からはソウルの景福宮の観光と主要部で各自ショッピングをしました。



韓国遠征を実施した感想としては韓国のチームはスタイルこそ違えどどこもシュートの意識が凄く高かった。攻撃には頑張って運動量を上げ人数をかけるが、逆に守備には若干緩い感じが否めなかった。やはりサッカーの基本の得点することへの意識を見習わなければなりません。ポジションをただのボール回しにならないよう常にゴールを意識させたいと思います。 芥川高校サッカー部監督 飯田 卓

クラブ指導方針

- ① 自主・自律の精神の育成
- ② 社会で活躍できるたくましい人間育成
- ③ 仲間を思いやる心の育成

